



子孫寶草  
完

9  
4191



門口 9  
號 4191  
卷



49-2689

其年其德澤尔活。飽きず。喰ひ。嗜み。不。厭。も。

皆先祖父母の恵よき。乃。尔。遊。居。し。て。會。歎。不。

行。り。を。の。が。れ。な。む。と。行。餘。力。あ。ら。ば。

聖。書。を。も。是。侍。り。中。に。其。上。に。以。て。主。を。

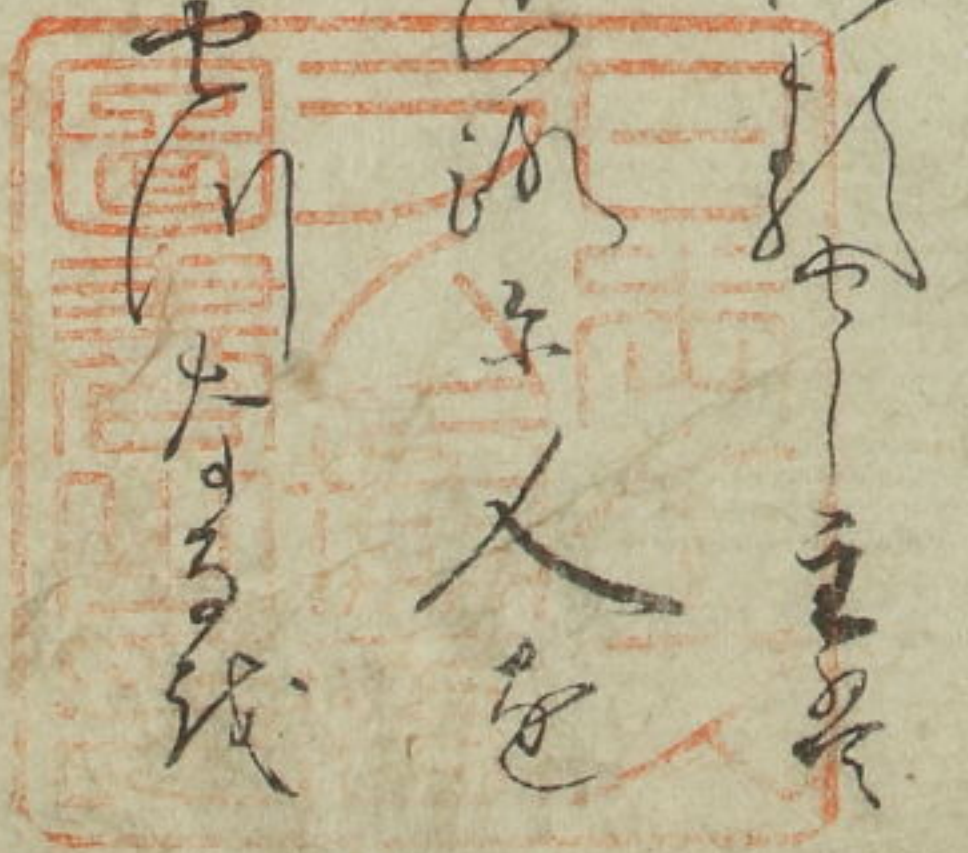
誰。と。も。わ。の。ら。ば。事。と。業。に。し。て。終。ん。す。の。み。又。を。

教。へ。た。れ。草。紙。に。も。其。意。味。乃。ち。其。の。大。なる。義。

感。が。た。あ。る。如。此。に。其。面。の。又。を。え。ら。び。る。時。に。

の。ぼ。せ。永。く。傳。へ。ん。男。女。何。の。名。は。あ。ら。む。と。扱。ふ。

分類 440(1)  
巻 440(1)  
番



首をさしつけし折る。我妻子供も  
給ふ。世草草を一覽し。傳也書成子孫  
傳ふ。子金ふも海もる。山空よりと云  
給ひし。其まう早し。子孫寶草と云し。  
将校合を給ひ侍時と云し。

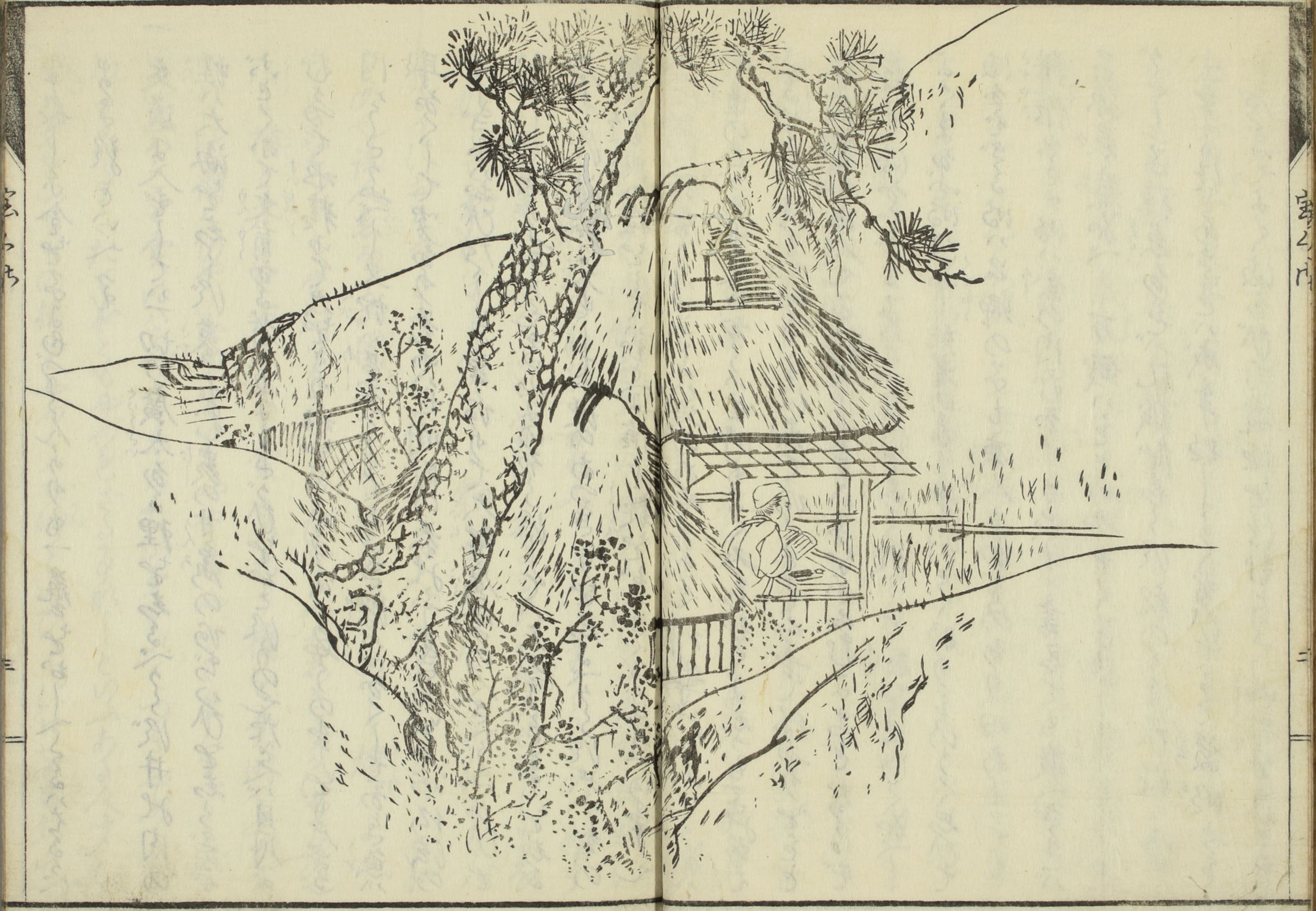
又仕十二集丙子妹 伊藤芳脩謹誌

子孫寶草

一 千卷万巻の書を見ても子句万句の理を明ても其理を守らば  
身持なりぬ時無量の事之學問も事公身のおこるひ  
志をなさんかあ一句一言の理を明てもよく道理を念念して  
はるる時いそ程よかひ一切の事へまことあてよ  
一 何れかの事人もはるるの事此際いふもの之是事とも志時ハ  
學問も成べし又後世の修めも如る事之是を以て知る者ハ  
主人もある人の際此なきといふ志のある事此は若者ハ  
何を志すねはひへある事此をぞおて目とくはを樂とハせざる  
なり只學問して義理をよくあきくめて人の内は歡樂と云  
一人の色と免持じきものハ書籍之子孫也つらん小も是はよし

きくう有べううに書る時いつとねくむられてるるりきき  
んま自然いぜんの文字も是も徳あり文字を覚えぬまが義理を  
あまの義理あるれば志徳の道は入人もあつたに男もおさほま  
家もそのひ仁義礼智信のふたをよくほるる之はめが仏法の  
お戒ごういもそのりて功德とあり未事みじの善果ぜんこもあまべり是皆忠を  
ゆとけん一が元とねりて二世の徳ありその本みごもてハ末  
とさるる事なり徳もども貧家ひんかひてハ何とひ出いうがたた大分此  
書ハまあまごころ一巻二巻小ても男持の用とあなご書る書を  
求め直ちた見べり南容と云一人ハ白圭の詩を毎日三度々  
誦吟じゆぎんしてはくしまもさるる事なり書よのそくまがんおきこの徳とあ  
なごりハ二句かとも書て机つくえのかつらよ直又ハ三居よん  
ゆかべよまあり直くんとつましむべり

一子に養やしなふ徳ありハせざるハ父のあまあり之訓導くんとうれおろそくハ  
師道しどうのとがあが父もあつハせ師もよくみちびくよまも子れ智を  
さるハ子の法を之何とらに思てあくまごらあて徳ありまことと  
むまハ家下さいげの人之子にとしとらハ子をふらむよあとならま  
教しやうてはかむざる子ハまご男とあまびりて死せちをまのひくあま  
よくまあが時ハ中ちゆう記者の子もま川とくねりまのうく思ひて  
はかむざる時ハ公卿こうけいの子も庶人しよじんとあまのあり田ありてま  
耕作こがさざる時ハ倉くらの内むかいうまべり一書もても教しやうはまは  
子孫しよん忌癘ぎれんかべり一万錢ハもとめやまく子孫の賢けんハもと免  
がご子孫忌癘おんりあまがバ礼儀をまらば親のうまひ教しやうあり  
小半せうはんもはとあままが成事せいじなり一よく思ひてまを教しやうめま  
かたまのよくはあびて道徳をほむまハ凶邪きゆうじやまのおま



山崎

山崎

半舟し子金を子よめつらんゆりも一蕨をわへるはちるに  
まのさねといへる

一文道を入むして一切の廣大ある理をあるべうに井此肉の  
蛙大海をあらば夢多をもむ畏の甘露の阿ぢつひをあらうが  
おとく小て文盲ある者の方ようごひをわこほりのたをば日月は  
むろつて水精中て火をとり水をさるるひるこのやうの事をもんごる  
肉はうごぶべし又蛇は足なくしてあるき蝶ははなくしてある魚は  
耳なくして空あり是ホハ世間目の糸此やぎこいせんや仏法の  
やぎ小おびたしき事ありて大智廣学の人さうごひを  
おこしてはよわねどさき山よのやうにべして天のまをさ事をある  
登るは海は入むして地のあつき事をあるべうに兵小智の  
者ハ書典の短をそへいむとは信ト疑をおこさるが才一の事

一 学問は入てよく修習せよといふやうは死なる者も自然に  
ち急いなり折殺よわ物に玉もみぢがさればあやうきものとあや  
なしる事書にいよくよく学びてあるものハ稲のごとくまか  
むびして悪むはまうのごとく稲ハ世このたうくとあやうハ  
ちるうにおとあしあやよく物ありける人ハ世このあやうくとあ  
まのて法人悪あうバ國去ハあやちまらみぢるべし燈ハよく  
くまきをさうし学問ハあやうのまをひをさうてあやうにさるもの  
一 唐は楯と矛とを市に出て賣るものあり楯を賣付はうら  
やめては楯ハ何やうも矛を以てやがるたやがる事さうごひを  
ひひ又やこを賣付はうらうらめけては矛を以てつらやがるを  
何とてかききたてはるものやうの事さるる物といふある人是以て  
海が矛を以てその楯をやがるはあやうといひしに口をさうらて

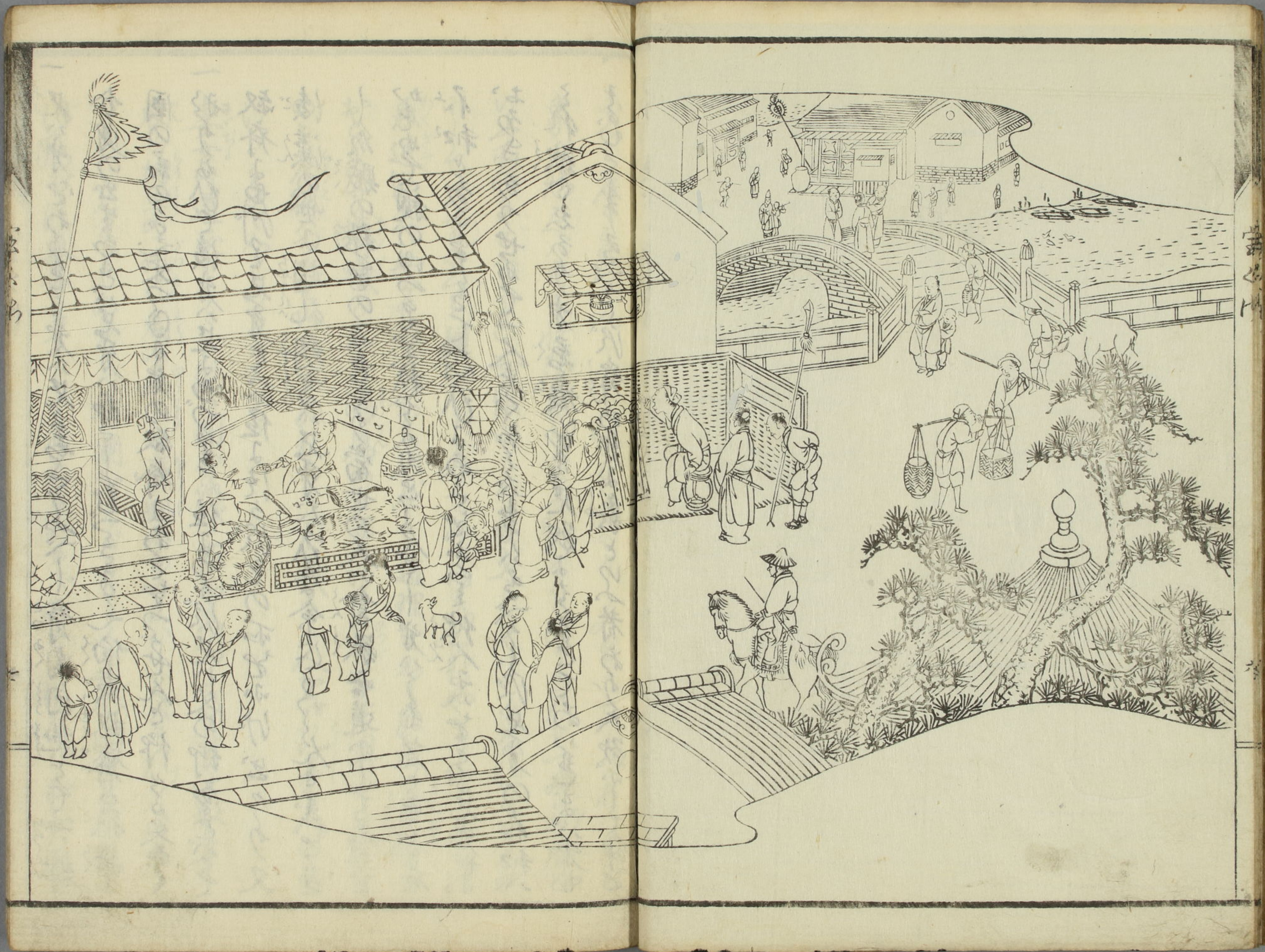
こゝに忠を自修お造るといふありき事よしくんと申すつら  
る由忠をばばして詞のちびあり総としてつらある事を  
いふ人ハ何程と申すをいひても詞のお造りありて申すつら  
あはれいつつる事をば必すすまがきことなり

一 主君ハよく忠義を以てせし一日の主君とて君臣の義を  
いふ人ハ多幸厚恩の主君をばいふ主君ハ親ありもた  
これおあはれ大義よしくありてハ親子兄弟よしくある事あり  
お和伊尹が大甲をとりたてて殷の世を治し周公旦の  
成王をたてて周の世を治し程嬰梓臼ハ我身をして  
主君のみかし子を世にたて紀信ハ祖の命にいつて潁陽に  
こゝみをしてつらお和漢主君の命に命をせて一人救ふあり  
一 親ハよく孝ありと申すは孝ハ百々の宗なり今の世に

人ハ忠瘵ある親ハ無程おほき忠孝ありと申すは忠孝は  
是も道理よしくつら替賈ハ忠瘵ある親を舜を小く度々  
あはれさんとせしつらつらみせし孝ありと申すは  
故大孝のの名をとりて天子とあはれ又曾子ハ親ハ大孝の人あり  
孟子ハ是をさし中の孝あり人の子ある若ハ曾子など孝あり  
申すは職ありとて大孝ハお和ぬき曾子程の孝ありの人を  
申すは今の世に申分はあはれ孝ありと申すはつら又親の  
ちびは杖をさしつらつら大孝の杖をさしつらと申すは  
小づるを礼ありと孔子ハつらつら忠義ハ孝子の門はと申すは  
いふ親ハ孝ある人ハ主君中と申すは忠あるものなり  
一 親ハよくつらつら忠義をさしつらつら又ハ忠義の命を申すは  
忠義ハ大孝といふ忠義をさしつら仁道をはり免我名をあげて

親の名をあらうをもせ才一の孝行ありと後日が親をばまはして  
他人の親をうまふを悖礼といふ子を覺ゆるんをうて親は  
仁に孝行の名をうべし又人目小なきのを孝行んえはして  
心の内は孝行のこころなきしあつき者あり人あはれをといふ  
天道を知らぬひてありをもせられあつて親をよく孝行  
する者他人へもおのづから礼うけよとの親は孝行ん人と  
おの親のいふことをせむを介へする時親はうへひゆりても  
又きうべし老年の親ある人遠くゆきてあそぶ屋うり者  
親死しては三年の心なきは親の志なきしこころをもせき  
あつて我あやうにまはるは犬不孝あり一切の罪科の内は  
不孝あり大いあるはねし三子界の人をころをもりも父母を  
ころをもいごおもきことんこころなきに親あり金瓶梅を  
ゆづり親を者大方の人親の恩をうとせし又ハ幼ありなり  
ふして親をもやあひけ之けて親へ恩をとりあう世はおほし  
是ハ放逸ある云分あり父母の恩ハ大海ありも深く須弥ありも  
高しとわりの世の育る一日のみさけそ志のあつて一生の内も附  
はらまきや佛ハ父母の恩あきしう父母の徳養は後ともいへば  
かこしとのぶちまふ  
一 養を習ふ人ハ先師通をうまひおこるべし才子ハ七尺去て師のづけをも  
あむべしだそ奥修はありてハ親おもてあつてむづろ道あり然るに  
法人やも習ひゆるは師通を種賤し教をひるる成志もあひ  
とげざる才子かかふしとの師の半学中も及ぶぬをうべしただ  
師ハ智恵不足は才子は志んで習ふは師のものこの習をうまひ  
ありたそ青いあつて藍あつて黒あつて水い水あつて水あつて水あつて













Vertical columns of handwritten Japanese text (kuzushiji) on the right page. The text is written in a cursive style and is mostly illegible due to fading and the angle of the page. There are approximately 10 columns of text.

むびし孝子のひは法利多き物之をさしあはる水ハ逆を火を滴す  
形一遠判の親類ハを隣小ハおとるりかほ一為の道とも和  
合あるなりハせくあきまの一切の阿さまハ必也隣あり親類  
まふべしちのくしとたぐひに罪をあるも忍そし一はあつ事阿あり  
両虎二龍ハいづれもあつそふがあと一

一家ハ金殿はあつば取もさきさきハ一親後ハ親ハあつばと  
阿つてあるまはし一食物ハ林猪ハあつばとを忍そし一はこれハ  
よし妻ハのやに逆あつばもか一これハ一とまづ一周礼ハ曰  
貧乏てもんさよさきハつに孝のし一阿あり富てもんあつて親子  
兄弟支ぬの六親ハ和あつばさうさひ多くしてんら一も孝  
一孝徳をくあき人の時ハあひて言位ハのほり又小智ハ人の  
ある事ハをうりらハいづれもあつてハのをもとあつて

一孝一孝と日とつひや一孝を時ハ命も危り免へせして老人とある  
一孝一孝時ハ魚の水屋ハて流しつてくごとく老若をうけて生  
くハもあきやうにぬまのし  
一孝一孝と他人ありともうやほひつて法之孝に徳人を人としてハ  
いハ一孝とハいあが一孝ハ孝のし一誰を老ぬまハ流しつて  
うらむるもゆく事ハ孝のあつて人のことあひて必也カウカウ  
一良業ハはよ若くも病ハ用ひて利あり患ハ一毎ハ孝のあつた  
弟のひひは徳あり人の徳をばんとあつて一はあつてあつて  
はがらものハ孝ハ孝の人の徳をく用てあつてあつてか  
人をも一親也とも不義ある事ハ孝ハ徳を加してさむづ一孝ハ  
あつてその家必也とよといは孝ハ一徳の道ハあつて

孝の道

一 款をばほしひまにまづうづぶよくとさう人はまきば必むわはち  
のまきものしとせばきむる事あるたのしと格て必むうきひ  
おころもの款おごりありおころありおころありおころあり  
ひん貧家よりおころあり大郡小家よりおころあり一切の眾科ハ  
不仁よりの教るなり

一 男子小ハ程徳ときうはだうむ女子小ハをしと格てむをいま  
あて多智ハせ書のそしともよまはて一幼少より教をさう  
うう徳ありハせ扱把減をさう一ありハせ一幸をげしき  
時ハ家女ときとのしにて何とあるべきや左格の時ハ礼賢おてハ見  
若女ふがいゆにおんえお徳より達者ありハ何格の破を  
換しとる所もまをやうに徳ありハ後形又才一之幼うちによく  
とさうと要とまへ一成長してハと一えと守らぬものあり

とさうハ本のまがうしとさうとくかてハかをさうとさうとさうとさうと  
ありまば杖をあらし子を小くおもむ食は何うはて一  
一 愚者ハかも當る時ハさうもち貧者をもさうひがりの徳能  
つきぬまば徳能わ者をもさうひがりの位ありぬまば徳能  
むくまをさうやむまもの

一 一かーのおとと徳所とつひは家りて用の時とつひぬ格まへ一又  
痴心むらのもまぬまをば人は同あそはる一人のふ多分につ  
失るもの之家思ふ通りをさうとあらうとさうとさうと  
一 一言おても理よわさうとさうとつひの事なる色無智の若のい  
半ハ理よわさうとさうと徳義をさう事おわさうもの之は皓の  
いとく徳を以て人をやうにむ事カゆて切があと一云  
やてもはてしむまをさう事あり徳の多き人をばむむくはたの

一 守るべき所の賢人の人のもとに財をばおくらば一してよき後を  
 おくらたうとんえきなりき後をうけよ人喜樂よりもは  
 さりて世の一一とるよき人ゆ人のゆきさいをば  
 実ゆをら一くまらぬ道理をゆまのここの山人の志が  
 うらみえて我勇のこい誰をうらみといふ家のぼと一  
 けとき人も我勇のこい誰をうらみといふ家のぼと一  
 心を以て我勇をせせ我勇よむぬるまを以て人をとるべし  
 一 智人よきとば一なりぬきばま徳をうらみもかあるゆ人  
 わらざるまら一愚友とば一なる者せば人相をきをわして  
 いむものこそとる虎の先へ立てけけを一切のここの相を  
 るがぼと一狐は相をら一うらざれたららの先へけけゆ人

一 書ハ山のぼとく園よあきとる縁ある者ハ人まらけけ材ハ  
 何やどつと重なりた何方ハ材中の勇にあさかハ材ゆつむ  
 ち急何よよよくあさかひひりもの賢人ハち急を貴び材を  
 いとく漢書よよく金ハ山ほご持たあさか風くる時ハこれ  
 急き時よ急きことけぬもの茶穀と衣被ハ珠の玉の急  
 一粒をらぬ時農夫の年中のうら一をあらべ一縷をあら  
 時も織女の辛勞を感せべ一耕作する者かくハ食をばら



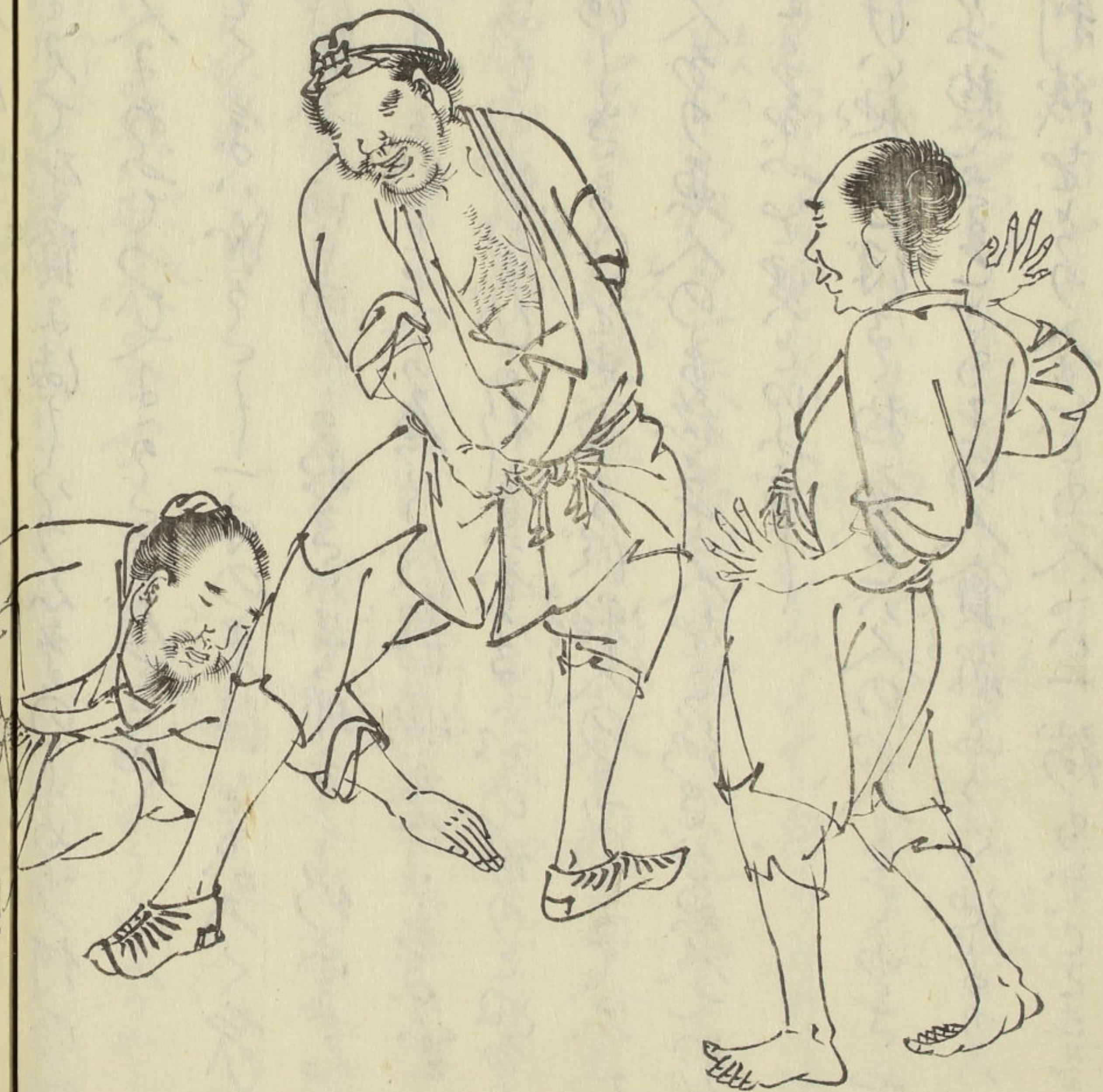




一 唐は韓信と不智勇をのこし兵ありきけきくして大かえ  
長き刀をさして道を歩くは馬麻をのさ倉りの積み油をたか  
ぬくをさやぬく事ありむむはむが油をさぐりてとせれといひ  
韓信をさよまたくさるとして勝をさぐりてありき後ハ  
漢の高祖の臣下と行り一天は名をおさしとてその世の人ハ  
大勇にして勇をさく進退速はあつて今この世の人ハ  
道を歩くありぞ此退くべき事ハみみみみみみみみみみ  
おはさちてさぐりなき事ハむむむむ天地重泥のちひえたるを  
あひさる人ハも人のまことさる事とくくくく万人の肩を  
こはさるのりことをせざり

一 つの文書をよめば賢人はあつて直は指南をうくるが如く  
又もろくの賢人を友とせよよことありむ或人のいひくは  
つゆ書籍をよめて賢人ははむむむむむむむむむむ何の際  
あつて世間の人はあつてつひよのさるるるるるる

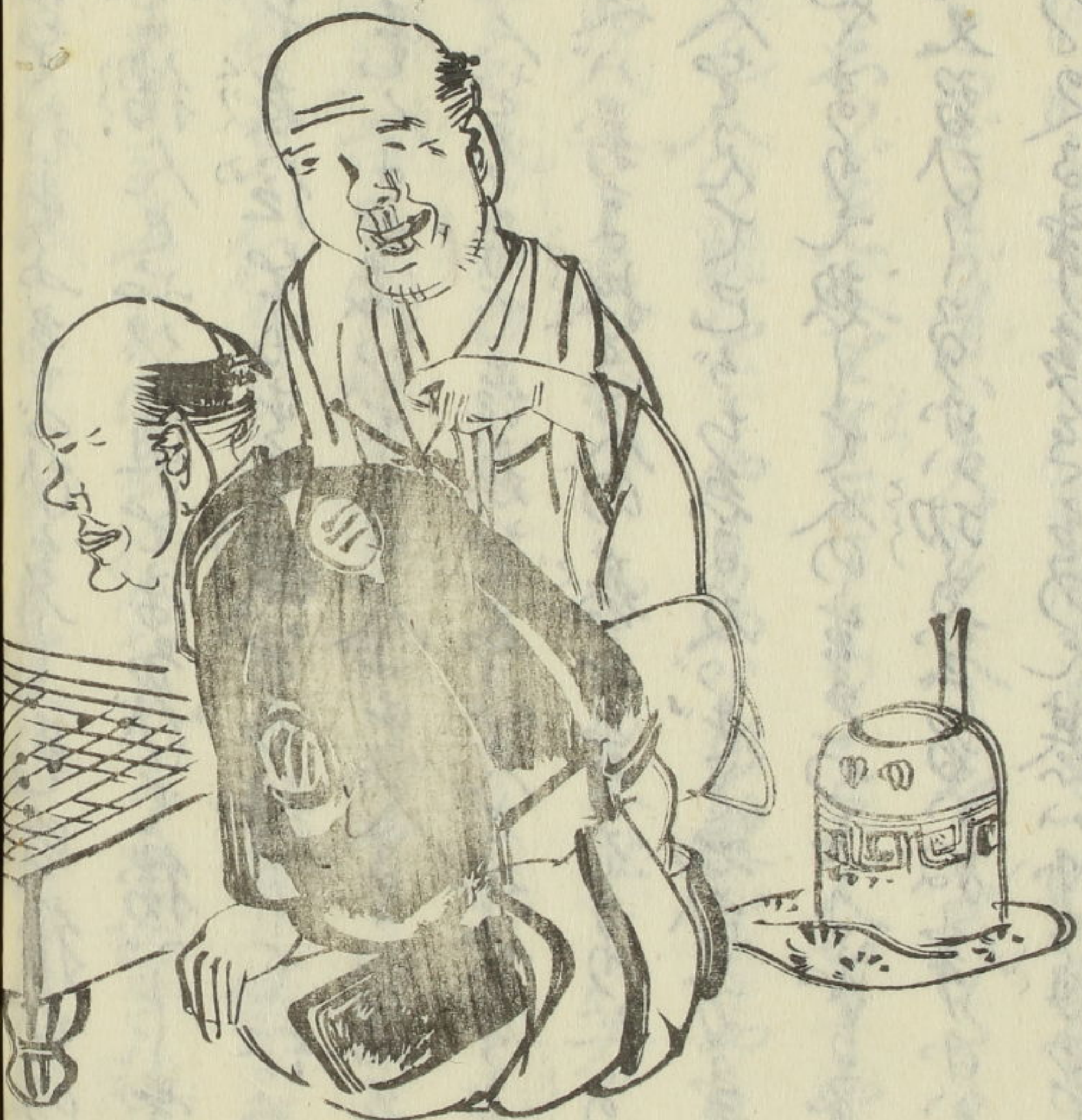
一 少年ハ老やまなく孝ハかろく一寸の光陰をかりくあひて  
はひやまむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむ  
つくをさくあつてむむむむむむむむむむむむむむむむむむ  
あつてむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむ  
一 かりそあふもあつてむむむむむむむむむむむむむむむむむむ  
をさくば則狂人あり愚人のまねとて人をさくさくさくさくさく  
あつても賢をまあつて賢といふは  
一 富者なるはよけい他へこぼる物あるは人の出入りてむむむむ  
あり家うるむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむ  
道の事あり利義をとり入むむむむむむむむむむむむむむむ



くるべきひありのやうに不義ゆゑ富む時あやうく  
 なぐり子孫はぐり幸れ一富よきとびて人へものをほご  
 こせバ人の出入つてくやまよもの富ても慈悲あるをバ  
 人うゝて出入あくく之にくくそよるゆゑ自然は清まら  
 評判とうるものそ范文正公といひ一人の始ハ貧ありが  
 存ハる富よのなり家富一に富むのやうに富む幸先祖の  
 積蓄ゆゑありとせ一人うめんハ面目ありとて一門の人よ田  
 地を賣あつてあるひハ版茶衣靴おとあつてとあり今此  
 世の人ハ富むといふも貧ある親類ハ目ものもだ出入するを  
 さうさくああり富むある人貧ある親類の取ハらうあ  
 て、中てはぐりだ彼人大勢中はぐりた皆そとふべきをさう  
 如ていあく入る

一 兼仁軌がいはるハ人ハ礼儀の道をまのちうよとて一生の内今  
 乃せあひまを百歩までハおくはだ一生の内時を人あが  
 てもあたま及までの換ハあること  
 一人ハ隙あつた書をもて聖教の程をわづらふあるやうにん  
 ころぐ一次よかなく事をあつて又算助の万の程も  
 ともあきおつて一やうに並ん事に精出人をばつてに  
 ある人ハの屋うらぶその介さぬぐの慈悲あるやうあ  
 おひとけぞしてせんかく月日せうはハ大悪の人と馬子ハ  
 多能をさづるといふ入事をうりおひそ介まう身はおねぬ  
 はひあるまをあつた  
 一 善の事に一と脚ハもあつて一あつて事をば人ハ同く  
 秋の幸もあつた人ありとも道を同くれよあつて

ありてはづらうしくいひての道はさむひ習ふべし一年は若後小ハ  
 よまぐらひに我ハ道を師とまべし師はあはれむはづらうのふりに  
 てもあはれむけぬまのこふ月此勤學ありの一時の學道まらんとて  
 一お毎人とあつそつむむが男はまけて人はあつむむむむがよし一教  
 男を達せんともむ先人を達せしめよと人ともあまあはれむの  
 身をもあまあはれむ人の教をもあまあはれむ教をもあまあはれむ  
 の教もむむ時人又まもをかりしむむむ必むかりむむむむむ  
 一力のあまびむも務負あるむむむむむむむむむむむむむむむむむ  
 せんまあはれむ基双六もまけていふ念よあまあはれむむむむむむ  
 ほうあくふはせてむがんをむむむむむむむむむむむむむむむむむ  
 ありしきなとあつそつむむその友れんをそのありあむむむむむむむ  
 意のははらひむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむ  
 りてあまあはれむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむ  
 六のむ失人ハ猶人とむむ道まらむむむむむむむむむむむむむむむ  
 んまあやにむむ友位をもむむむむむむむむむむむむむむむむむむ  
 入ハ學文の力ハ是人ハのはむむむむむむむむむむむむむむむむむ  
 一力にむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむ  
 だむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむ  
 基のむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむ  
 幸大いあるあまあはれむむむむむむむむむむむむむむむむむむむ  
 りてあまあはれむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむ  
 実用の者もつてはる事多きものハ基ハ下もあはれむむむむむむむ  
 ともうにもむむむ事あり文字の法師晴院の禪師たがひむ  
 はあてむむむ智よ及むむむむむむむむむむむむむむむむむむむ



か務めりてあかざる事とが智のつらき之又秘道中もあらず  
習ハぬ事とバ人とあらずとぞぞ

一人の子れありてちうもいさぐ父の教中人と物りよとて  
史書の文を引くありていひのいさぐ父の教中人と物りよとて  
おとあてええ一之想して智者の教中人と文書を引くまか  
教中人とあてええ一之想して智者の教中人と文書を引くまか

一生何事なく所をおさむ一藝をいさぐ人のいさぐを秘すれ  
又藝もあらずとらる一むるもあらずとらる一むるもあらずとらる  
一人必も浪人するものありあらずとらる一むるもあらずとらる  
よくあらずとらる一むるもあらずとらる一むるもあらずとらる

一心ハ鏡のぶと一文字書を学ばういさぐとらる一むるもあらずとらる  
せんとも随分學問一とらるがかんやうとあつて道に道を  
別てあつて死ともいさぐとらる一むるもあらずとらる一むるもあらずとらる  
技藝茂る源をいさぐとらる一むるもあらずとらる一むるもあらずとらる  
王がんをいさぐとらる一むるもあらずとらる一むるもあらずとらる  
なむとくまるといさぐとらる一むるもあらずとらる一むるもあらずとらる

一日がまぐ食事必脾胃をやがり病を生一命をいさぐ  
むるものいさぐとらる一むるもあらずとらる一むるもあらずとらる  
そこの事おや一むるもあらずとらる一むるもあらずとらる  
一乃まぐとらるいさぐとらる一むるもあらずとらる一むるもあらずとらる  
いさぐとらるいさぐとらる一むるもあらずとらる一むるもあらずとらる  
お食事をいさぐとらる一むるもあらずとらる一むるもあらずとらる

いさぐとらる

いさぐとらる







一 及ぶるまふらむが身の分限をありてをやくとまふべし金銀も  
らとあつては之が貪者をうけかめ及ぶぬ事に精を入る  
をうけ病とある分をあらむとひてをあらむハ己があまあり  
一切の事ふまふくの人びとてあまふまふとあまふハ子くとは  
才一の事とまふらむハ才一の事とまふらむハ才一の事とまふ  
らむとまふらむハ才一の事とまふらむハ才一の事とまふらむ  
あまふらむとまふらむハ才一の事とまふらむハ才一の事とまふ  
らむとまふらむハ才一の事とまふらむハ才一の事とまふらむ

一 馬ありあつてかこまと形り又ハ死せしもの救多しもの力  
つとまふ人のか及ぶらむとまふらむとまふらむとまふらむ  
叶ハぬもの馬をむつとまふらむとまふらむとまふらむとまふ  
らむとまふらむとまふらむとまふらむとまふらむとまふらむ  
といへ道橋もくもあまふらむとまふらむとまふらむとまふ  
らむとまふらむとまふらむとまふらむとまふらむとまふらむ

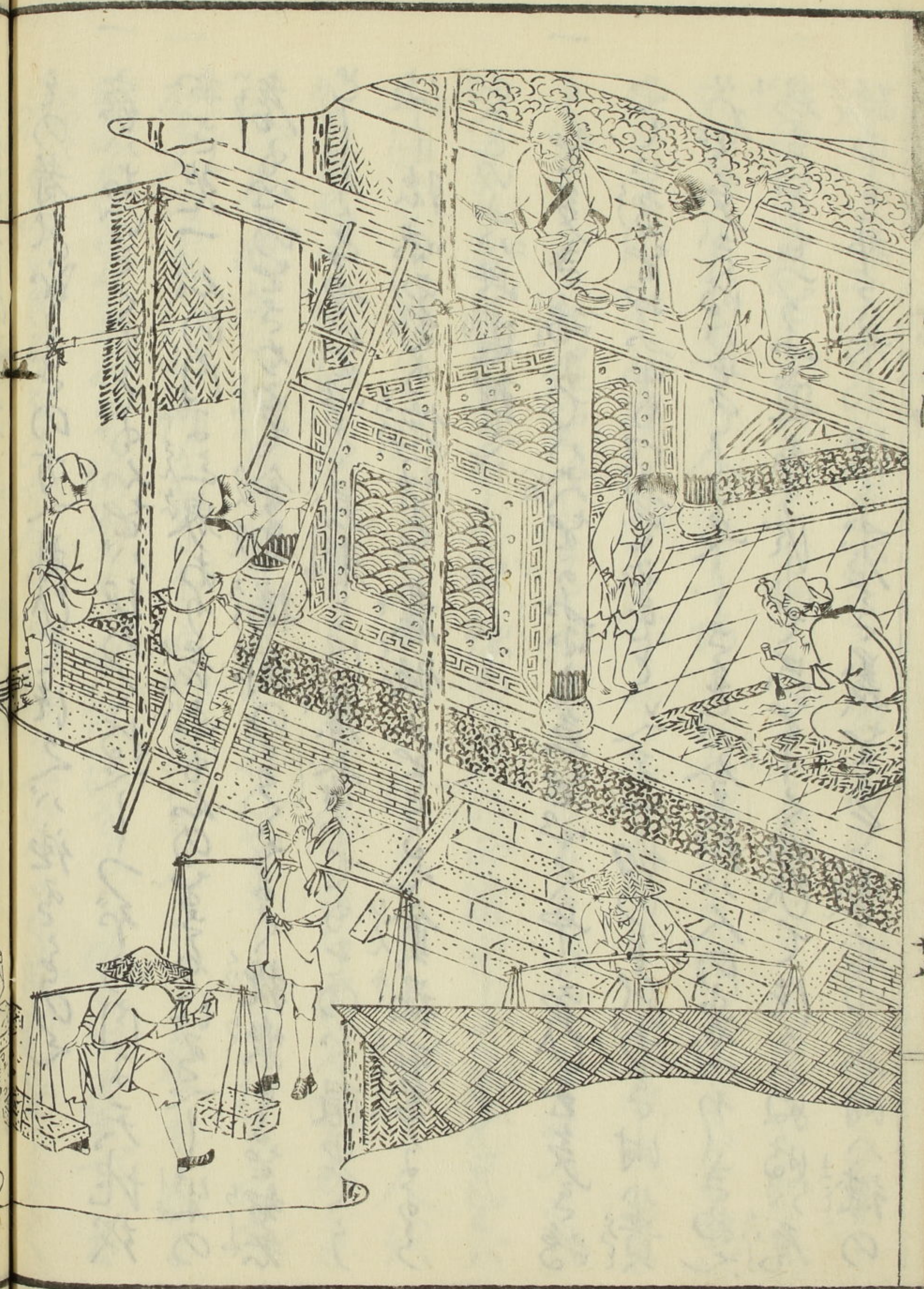
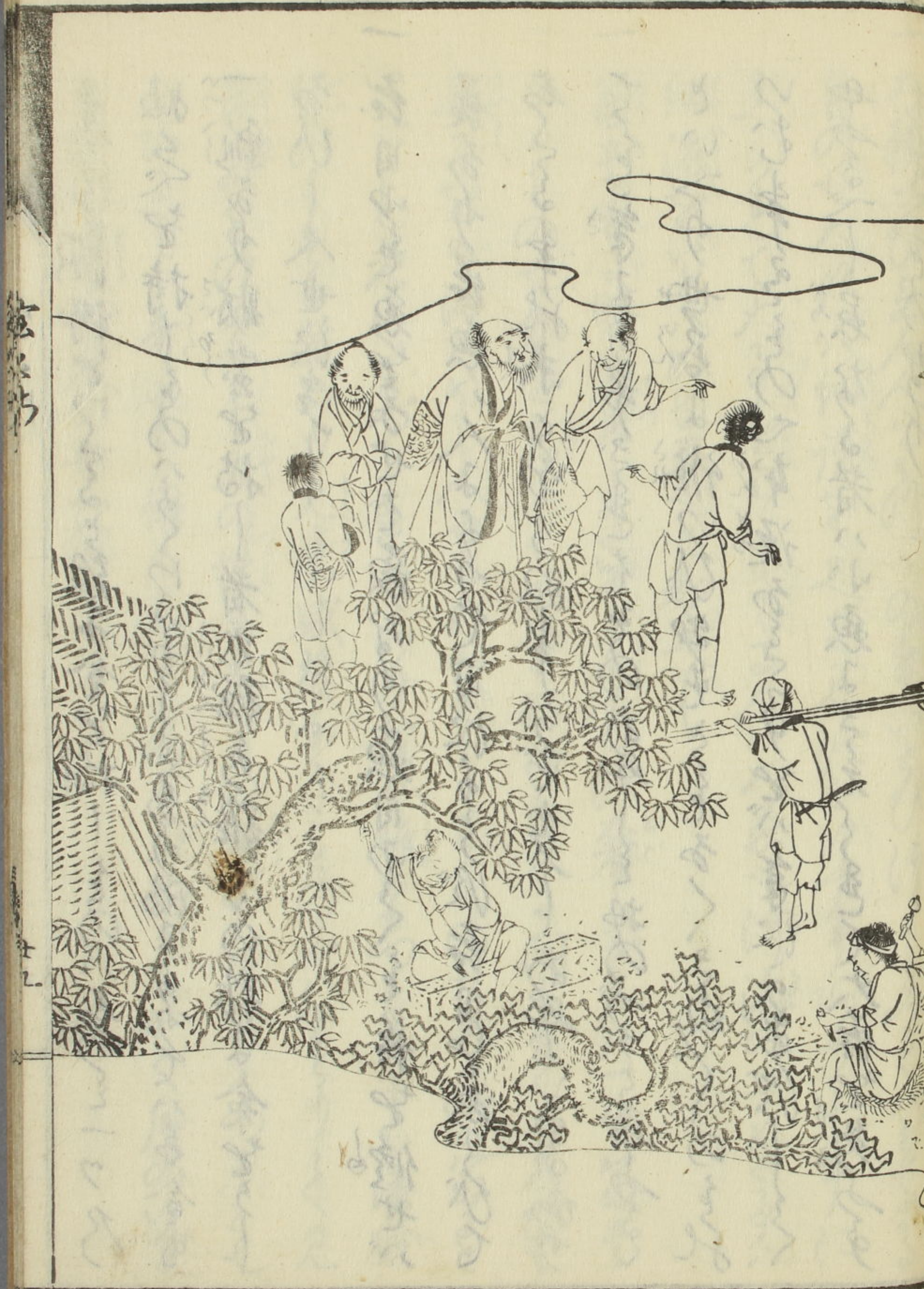
一 或人のそく虚はゆるはこととまふらむとまふらむとまふらむ  
またとに中らむとまふらむとまふらむとまふらむとまふらむ  
危し又智者のいふ事にしても義をむけらむとまふらむとまふ  
らむとまふらむとまふらむとまふらむとまふらむとまふらむ  
人よあまふらむとまふらむとまふらむとまふらむとまふらむ

一 人よあまふらむとまふらむとまふらむとまふらむとまふらむ  
つひにわあまふらむとまふらむとまふらむとまふらむとまふ  
らむとまふらむとまふらむとまふらむとまふらむとまふらむ  
あまふらむとまふらむとまふらむとまふらむとまふらむとま  
ふらむとまふらむとまふらむとまふらむとまふらむとまふら  
むとまふらむとまふらむとまふらむとまふらむとまふらむ  
おま功をくして一切の事あまふらむとまふらむとまふらむ  
あまふらむとまふらむとまふらむとまふらむとまふらむとま  
ふらむとまふらむとまふらむとまふらむとまふらむとまふら  
むとまふらむとまふらむとまふらむとまふらむとまふらむ









世より之河を以てると親子金を持し其のハ志づき一ツ乃  
ぬぐを持し其のハ志づき一ツ乃  
一瓢あり財宝を持し者大難あり難百の難は命をう  
あひし人世に多し

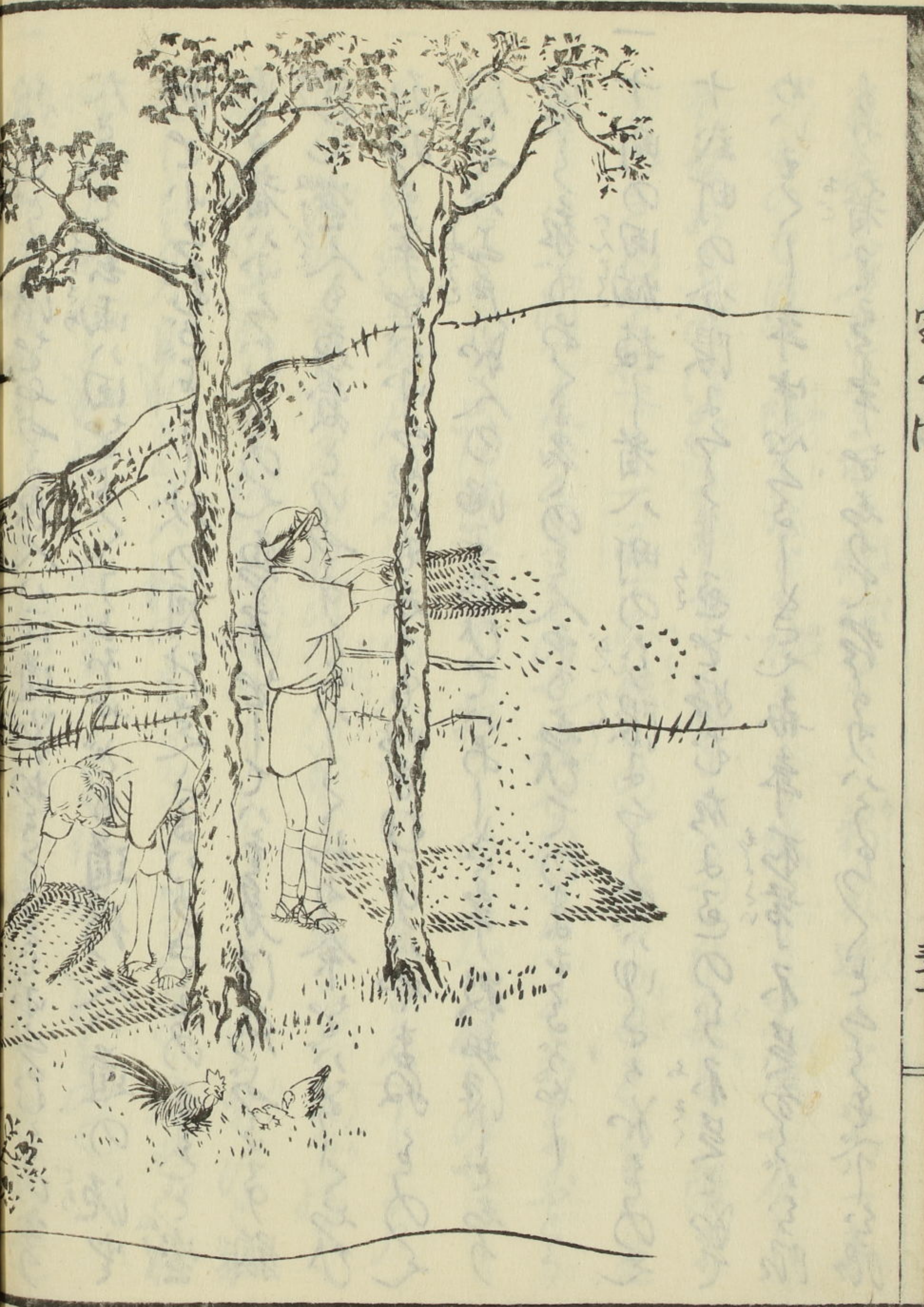
一 古日ゆも魚をかせを魚なり魚日ゆくも魚を修せば  
若あり若魚ハ人ハありて日によらば若日をおびて  
あつる半此末とわらぬ事この世多しあやきるあり  
てとなきよの事なきをそのあやと母のづきあやき  
といへり世るは誰のひゆもともなくさぬぐのまれ  
いむ事よその之が況あつる事とまきにの事だし  
やがるべし一魚なる者ハ小魚よさるるもて大魚を失ふ事  
多し其の事あり

一 大類ひま人ハまづりの事いひはしきみくはる  
もの大仍ハ細謹を之るんばといふ事あり小事に  
まらして大事をさるる人ハ大魚之河海のあつるハ  
細流といふハぬゆとこと知るべし  
一 富者ある時は貧しき事をま色に奢るる事ハ一生富者  
あるもの之分を忘れてるを好むゆとて問もあつらひて  
妻子どもはどし人ハあまどしるものなり始ハ富者と  
いへども老くまづしき者あり或ハ始者あつてくして後威  
勢のうき者あり元来威勢あるものハもとより見え  
若貴ものあり千丈の境もまづりの境の定よりまづる  
ふあるべし新やも誰もんよまづるまづるやどかく月のい  
あひの事や人の世は事



一家居もやあましむる所は修理せらば一秋敷造る事せば一年  
 づものたにべし陳子なども破さる紙をうりて張之を  
 是智ある人のほむる事あり家もあるつひ具是に限あり  
 のゆき物を持て一不不徳ものを家中も過くもと免  
 重しハ之にて見ふべきもの之換せぬあともあまらざる  
 ぬもえさし一法はひもきく物うのりたが徳もの  
 一人の長息せあるんとあむその人此このむ友をえべし子乃  
 よく孝行あるとんを親の仁居ありとあるべし臣下はよく  
 忠へ忠あるとんを君の政道正しくして臣下を善く知  
 登しそ身直知とまは親のまがうづるごとく君をくか  
 時ハ臣もまぐよか親仁道あるば子の仁道よあまもの  
 一正しき政道あるば臣の行り万民うきひあくして信ぜ  
 徳せども法をやめる悪人の正道やあましむるものあり  
 たとを妻雨ハ回をよくうるやせども道行人ハ道の流せ  
 如せ小くむごごと一秋の月此さるるいよとこのあまこと  
 中者ハ小くむごとの事事をしてハ身身ほあがるる類  
 終て盡人もあまといのりうらへく知り命をばとくあひ  
 死ぬる事せば小くあまの志うもぬむむらハあまぬもの  
 たとハよ戸如人の酒はあひてハあき事教相傳とあり  
 あがらる事もわくまのそ人の中も志ひてのままするがや  
 一十町の田畑持し者八町のみ限よりせはゆらわもの  
 十武町の分限より一色を好むあまのから不足とめて  
 めいよく一年中心る一きこ毎年年不足あまらる  
 より奢るる事をあてたよりかうとくせべし

一十町の田畑持し者八町のみ限よりせはゆらわもの  
 十武町の分限より一色を好むあまのから不足とめて  
 めいよく一年中心る一きこ毎年年不足あまらる  
 より奢るる事をあてたよりかうとくせべし





酒はまづうめといふもあぐる水の志ハ涉るるもいふも一掃  
 之しぬきば思ハるる如謝しとあし備はるるをあふる一掃ハ  
 かしぬきども志ハ耐しごとく事ある人ありハガシの思をうけ  
 たりともまをさばりて大報ゆく謝をべきんを指べし思我  
 うけく報せざるものハ大衆ある由忍現を中へむくハばとも  
 未未あて美とくあむるといしり皆人むえとあふるを忍むるハ  
 鬼をうけともあむる思をうけく思ともあぬ之仁者二日乃  
 らる中命をまつるといへ

一人ノ思を説して他を志く人ハ子孫繁業ははるるをく産し子孫の  
 さうおとろへを先祖の長無よるべしむらひ中の産連ある  
 ものをもやさハ形男よむらひと成まハ子孫へむらあべし

一 思をうけく報せざるものハ産産人のごとし一男子ハ礼のあは  
 財を志て悪人ハ利徳の爲ハ思をまつるあり思して欲衆此  
 衆生あはば何よせんとおふんあてもなく思一衆は秋婦のき  
 一の之秋おほるも志を損しあやまちをほすものなり  
 子金をあましくいへる若ハ世よ救多し智徳をばらめし  
 思を報するものハあられなり

一 衆の事十かられバこがもゆくあといはるるひ入とつり方の  
 食もくはよる思といふ事あまは病おらるるあをのこく  
 思然もきハガシのるあり後ハあてあてあむハ久しくく  
 らる痛もあて治せんをさるるああよくぬせぐべし  
 つひもあて治せんをさるるああよくぬせぐべし  
 一人は徳をつめてさるるああ天より幸をさづか人ハ損成  
 のあてあひあてさるるああ天より幸をさづか人ハ損成

と色人しつゝまはるゝと一我人をあつてむら  
つが男をあつてむらぶら

一まごいひの西路の家に入事やたはる利紐ハ舞飛の人我  
まごいひの西路の家に入事やたはる利紐ハ舞飛の人我

日月の曲<sup>まげ</sup>を<sup>まげ</sup>とて<sup>まげ</sup>さるがぶと

一歌男のあつたをいふ人あつたをいふ人あつたをいふ人  
あつたをいふ人あつたをいふ人あつたをいふ人

あつたをいふ人あつたをいふ人あつたをいふ人  
あつたをいふ人あつたをいふ人あつたをいふ人

あつたをいふ人あつたをいふ人あつたをいふ人  
あつたをいふ人あつたをいふ人あつたをいふ人

あつたをいふ人あつたをいふ人あつたをいふ人  
あつたをいふ人あつたをいふ人あつたをいふ人

あつたをいふ人あつたをいふ人あつたをいふ人  
あつたをいふ人あつたをいふ人あつたをいふ人

あつたをいふ人あつたをいふ人あつたをいふ人  
あつたをいふ人あつたをいふ人あつたをいふ人

あつたをいふ人あつたをいふ人あつたをいふ人  
あつたをいふ人あつたをいふ人あつたをいふ人

あつたをいふ人あつたをいふ人あつたをいふ人  
あつたをいふ人あつたをいふ人あつたをいふ人

あつたをいふ人あつたをいふ人あつたをいふ人  
あつたをいふ人あつたをいふ人あつたをいふ人





一 旅をなせよのハ必也万端をなす旅の事よあはれ人まで  
まぐあらん事を形よの也

一 志のうに心へをさす一方の法はひはらうせははさしきよの  
なりぬ十年くくしては十九年此形ハ知るといへどもいまだ  
あまりに未の身持をさふさんとまゝ人あし事さひあは  
あまりと日暮くろむといふぐがぶとく年月をせせぬ  
まゝありまゝ時を執つてあてまゝく持物あまやうに力  
をま指べし落花枝よのうらまゝごとくむくひあまは  
いふ事形し扱をまぶき事也

一 百歩ハ堪忍をまを才一とまゝありよく事人あのをざれば  
徳ありまゝのりれしとくく破くまよく志のをざれば  
せまるとあり世なるの事あまこのんあんうまきま人  
あはれ朋友とまゝいづるよよくこのんあんあまきままどり  
まゝる屋し主婦あまひよこのんあんあまきま家みま  
一子まか一子とあまのそとあんあんあまきま必也  
飛を屋し皆人あまあまのんあんあまきまあまのあれたあ  
小ハ法くまの形し一矢のあまきまこまのびてやく時ハ  
病を治し戒形もよくまゝあまあまきまあまのあま  
あまのあまきま人をあまはまゝあまのあまきまあま  
いたまあまのあまきまあまのあまきまあまのあまきま  
いふあまのあまきまあまのあまきまあまのあまきま  
たまを天よむろくあまのあまきまあまのあまきま  
あまのあまきまあまのあまきまあまのあまきま  
はまのあまきまあまのあまきまあまのあまきま









一世の人樂をせんと思ふは金銀は欲出くをこなく身成  
くもしむるものも名利の多をやめて著るべきものしを  
まほしきと思ひてさがる時ハ身もやましく人の中よりせり  
かくして之にくまのしとあるものも十餘のつひやま  
一獲をもとめざし一求むるも死をともんとし且若  
患をかいつひやまき願例のふこのまんや八苦のな  
生きて樂をせんと思ひても何ハ糸の糸のきえより穢  
あやをあるは清浄を徳がひてもまもるハ一ツのな  
一生の内幸者一々金銀をともむるハ天の得たを法  
くまんとやどえく得るく好のまもるハ世の世れ  
ありも後あかざし一とせも身をとる一や名利の世は  
くまらぬまもるを徳と見るハ一

及ばざるをばなげく人なりかこちハくもくもあまの  
こそはかこも眉目くもハ生かすいあれハなましてせん  
なハハあやせハなるものこそまじは代の人れ事ゆんの賢  
然とばあるせとせしものハあま書書のせじ  
一世人の病る物をば辞退せじ一くまなく一とせは礼のせ  
又下よりこのまのハかろま物かすいよハ一とせハ  
一病ハ病のし生かすといハ生かすいハ血のめぐぬ人の  
ハハ病癒ゆも若くもあまきも若く一とせハ病癒ゆも  
病癒ゆハ病癒ゆハ病癒ゆハ病癒ゆハ病癒ゆハ病癒ゆ  
あまのしに若くもあまのしに連く病癒ゆハ病癒ゆハ  
て病癒ゆハ病癒ゆハ病癒ゆハ病癒ゆハ病癒ゆハ病癒ゆ





樂天堂 佐藤了翁

藏書

画工

南江八尾貞



彫工

遠藤儀兵衛

芦野清共堂

